

「きばっど」 南薩の社会教育



家庭の教育力の向上



青少年教育の充実



地域文化の継承・発展
文化財の保存・活用



人権教育の充実

地域の教育力の向上



令和6年3月発行
南薩地区社会教育振興会

県指定無形民俗文化財
津貫豊祭太鼓踊
(令和5年10月27日撮影)



1 社会教育委員

【社会教育功労者表彰（文部科学大臣表彰）】

- ・下川床 泉（指宿市）

2 PTA関係

【令和5年度「楽しい子育て全国キャンペーン（三行詩）」】

- 【小学校の部 佳作】
 - ・梅 咲登（県立指宿特別支援学校1年）
- 【中学校の部 佳作】
 - ・茅野 亜音（南さつま市立金峰学園9年）
- 【一般の部 最優秀賞】
 - ・荒場 知子（南さつま市立金峰学園）

【県PTA連合会表彰】

- ・指宿市PTA連合会（指宿市）
- ・枕崎市立別府中学校PTA（枕崎市）
- ・指宿市立指宿商業高等学校PTA（指宿市）

【優良PTA文部科学大臣表彰】

- ・指宿市立指宿商業高等学校PTA（指宿市）

【日本PTA全国協議会特別表彰】

- ・山本 敏勝（個人：指宿市）
- ・海江田 宗順（個人：南九州市）

3 公民館関係

【第76回優良公民館表彰】

- ・枕崎市桜山地区公民館

【県公民館連絡協議会公民館職員表彰】

- ・谷元 隆宏（指宿市池田校区公民館館長）
- ・今村 善哉（指宿市山川校区公民館館長）
- ・菱川 光久（指宿市徳光校区公民館館長）
- ・西村 甲一（指宿市利永校区公民館館長）
- ・嶽野 万水（指宿市柳田校区公民館主事）
- ・山内 廣和（指宿市池田校区公民館主事）
- ・橋口 和行（南さつま市大浦校区公民館主事）

4 社会教育振興会関係

【地区社会教育振興会表彰】

- ・西森 佐恵子（個人：指宿市）
- ・森 道裕（個人：南さつま市）
- ・読み聞かせグループおひさま（団体：枕崎市）
- ・読み聞かせグループ虹のおくりもの（団体：南さつま市）

5 子ども会関係

【全国子ども会連合会表彰】

- ・知覧校区子ども会育成連絡協議会（南九州市）

【九州地区子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・吉松 幸夫（個人：枕崎市）

【県子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・永田 正人（個人：南さつま市）
- ・平木場 幸（個人：南九州市）

【県優良少年少女団体及び地域高校生クラブ等表彰】

- ・下山子ども会（枕崎市）
- ・愛宕上子ども会（南さつま市）

【地区子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・大塚子ども会（団体：枕崎市）
- ・俵積田子ども会（団体：枕崎市）
- ・渡瀬・鳥山子ども会（団体：指宿市）
- ・網揚子ども会（団体：南さつま市）
- ・かわなべ「なべ花火」（団体：南九州市）
- ・山下 裕美（個人：南九州市）

6 読書活動関係

【子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体文部科学大臣表彰】

- ・指宿市立山川図書館（指宿市）

【県図書館大会表彰】

【優良読書グループ全国表彰（鹿児島県読書推進運動協議会）】

- ・枕崎市読み聞かせボランティアグループ連絡会（枕崎市）

【優良読書グループ表彰（鹿児島県読書推進運動協議会）】

- ・川辺図書室親子読書会（南九州市）

7 人権教育関係

【人権に関するポスターコンクール】

【部門別 最優秀賞】

- ・山中 心潤（南九州市立別府小学校2年）
- ・湯之上 雄星（指宿市立山川小学校3年）

【学校賞】

- ・南九州市立別府小学校（小学校低学年）

【優秀賞】

- ・湯之上 真緒（指宿市立山川小学校1年）
- ・中村 奏翔（指宿市立柳田小学校1年）
- ・前田 諭和（南九州市立川辺小学校6年）

【入選】

- ・河野 莉朋（南さつま市立益山小学校1年）
- ・田畑 紗咲（指宿市立柳田小学校1年）
- ・西原 叶笑（指宿市立柳田小学校1年）
- ・羽牟 穂乃果（指宿市立柳田小学校1年）
- ・南竹 颯（南九州市立別府小学校2年）

【人権作文コンテスト（鹿児島県大会）】

【南日本新聞社賞】

- ・中山 真子（枕崎市立枕崎中学校2年）

【優秀賞】

- ・若林 和花（南九州市立九玉小学校5年）
- ・川野 紘香（南さつま市立加世田中学校3年）
- ・伊尻 百花（南さつま市立加世田中学校2年）

【奨励賞】

- ・山下 真央（南九州市立別府小学校1年）
- ・加治 光理（指宿市立開聞小学校2年）
- ・下原 楓太（南さつま市立万世小学校4年）
- ・今給黎 和幸（枕崎市立桜山小学校3年）

8 少年の主張鹿児島県大会

- ・優良賞 飯塚 玲愛（南さつま市立万世中学校1年）

9 地域が育む「かごしまの教育」県民週間

【ポスター原画】

- ・入選 濱田 結莉（指宿市立川尻小学校1年）
- ・入選 小濱 心暖（南さつま市立小湊小学校2年）
- ・入選 崔 安俐（南九州市立別府小学校2年）
- ・入選 利田 心花（南九州市立九玉小学校4年）
- ・入選 山下 詩織（南九州市立九玉小学校6年）

【標語】

- ・特選 阿久根 晏志（枕崎市立枕崎小学校1年）
- ・特選 牧野 壮汰（枕崎市立別府小学校4年）
- ・特選 下釜 秀斗（南さつま市立川畑小学校5年）
- ・入選 松園 周平（南九州市立大丸小学校6年）

10 「家庭の日」絵画・ポスター・標語作品展

【絵画の部】

- ・最優秀賞 湯通堂 唯人（指宿市立柳田小学校1年）
- ・優秀賞 桐木平 志穂（南さつま市立川畑小学校2年）
- ・優秀賞 前野 美緒（南さつま市立金峰学園3年）
- ・優良賞 阿久根 聖司（南さつま市立小湊小学校2年）
- ・優良賞 高橋 咲里生（枕崎市立別府小学校3年）
- ・努力賞 若松 歩希（南さつま市立内山田小学校1年）
- ・努力賞 有島 芽衣（南さつま市立笠沙小学校1年）
- ・努力賞 上野 璃陽斗（南九州市立勝目小学校3年）
- ・努力賞 大坪 千春（南九州市立大丸小学校5年）

【ポスターの部】

- ・優良賞 内園 優心（県立指宿特別支援学校5年）

【標語の部】

- ・最優秀賞 内村 友哉（南九州市立勝目小学校6年）
- ・優良賞 菊永 莉音（南九州市立宮脇小学校2年）
- ・優良賞 瀬川 瑞翔（南九州市立穎娃小学校4年）
- ・優良賞 浜村 太創（指宿市立山川中学校1年）
- ・優良賞 西川 琴奈（指宿市立開聞中学校1年）
- ・努力賞 福元 仁奈（南さつま市立内山田小学校2年）
- ・努力賞 豎山 陽香（南九州市立高田小学校5年）
- ・努力賞 内園 優心（県立指宿特別支援学校5年）
- ・努力賞 森田 緑旺（枕崎市立別府中学校3年）

家庭の教育力の向上

南薩地区PTA役員研修会

〔令和5年6月28日(水):南さつま市民会館〕

今年は、地区PTA連絡協議会と各市PTA連絡協議会(連合会)の役員を対象にした研修会を開催しました。

令和5年度南薩地区PTAの努力点を全員で確認した後、講師に高校生で鹿児島市「唐湊山の手町内会」の町内会長に就任し、新聞等でも話題になった金子陽飛氏を招いて講演会を実施しました。「会長に就任して5年、これまでの町内会活動を見直し、前例踏襲型ではない、活動の本質を大切にして改革に取り組んでいる。」

というお話は、コロナ禍などを経ていろいろと見直しを迫られているPTA活動に通じるものがたくさんありました。その中で、「活動を3G(我慢・義務・犠牲)ではなく、L(Love:愛する)・E(Enjoy:楽しむ)・T(Thankyou:ありがとう)を大切にして改革に取り組んできた。」など、とても興味深い内容でした。参加者からは、「立体的に物事を見ることで、考え方や発想の転換につながるのだと思えた。」「自治会だけでなく、PTA活動や職場にも生かせる内容だった。」「PTA活動を考えるきっかけになった。」などの感想があり、これからのPTA組織やPTA活動の在り方についても参考になる講演でした。



【講師:金子氏】



【分科会】

協議及び情報交換では、少人数のグループでコロナ禍後のPTA活動の課題や学校の現状について情報交換を行いました。時間が足りなくなるくらい熱心な意見交換でした。「他校の様子が聞けて参考になった。」「情報交換が一番楽しく、やる気が出た。」など、講演と同様に参加者が前向きになる研修会になりました。

南薩地区PTA会員等教育講演会

〔令和5年10月25日(水):指宿市民会館〕

知的障がい者サッカー日本代表監督の西真一氏をお招きし、「子供たちの特性の捉え方と可能性を引き出す手立てについて」の演題で、講演をしていただきました。

講演の前半では、障がい者サッカーにはその障害より、「知的障がいサッカー」を含めて7つのサッカーがあり、障害の特性からいろいろなルールが準備されていることなどの話や試合の様子を記録したビデオを流されました。7つのサッカーがあることや障害がありながら自分を成長させようとスポーツに打ち込んでいる姿に、驚きと感動の声がアンケートの感想にたくさんありました。

そして、知的障がい者サッカー全日本代表監督として、「選手は成長する存在である。だから、監督として、個々の選手が成長するために、『遠目に見る+表情・仕草』『何ができるか』を考えながら、コミュニケーションを大切にしている。」と話された。また、「自分も、何歳になっても学び続ける。成長したい。その思いを持ち続けている。」とも話されました。アンケートには、「子供との接し方に悩んでいたが、一度立ち止まって考えてみたい。」「何歳になっても学び続ける。成長したいという言葉が強く印象に残った。親として、子供が成長できるように自分もそうありたい。」など、親の前向きな感想が数多くありました。

講演の最後には、10月末にあった全国障害者スポーツ大会鹿児島大会の知的障がい者サッカー鹿児島代表選手二人も登壇し、西さんの司会でサッカーへの思いやこれからの抱負など話していただきました。三人の強い信頼関係、選手二人の堂々とした話しぶりに、会場から、「試合、頑張って」の声がかけられるなど共感と感動の講演会でした。



【講師:西氏】



【監督・選手によるトークセッション】

地域の教育力の向上

南薩地区社会教育・文化財・社会体育行政研修会

〔令和5年5月12日(金):指宿市なのはな館〕

年度初めに、4市の社会教育・文化財・社会体育の担当者が一同に会し、社会教育行政や個々の資質の向上を図ることを目的に実施しました。

全体会は、南薩教育事務所指導主事による南薩地区の施策説明後、合同会社グッドフィールド代表**原田 大輔**氏による「地域づくりと活性化ー障害者福祉、農業、スポーツクラブを通じた取り組みー」と題しての講演でした。関係する行政機関や各種団体等への精力的・戦略的働きかけ、その行動力への驚きとともに、行政の推進者として学ぶことの多い講演でした。

分科会では、各市の現状や課題等について、意見交換を行いました。他市の課題や解決に向けた取組などの情報交換や意見交換は、今後の社会教育行政推進にたいへん役立つものでした。



【講師：原田 氏】



【分科会】

第1回南薩地区社会教育担当者研修会

〔令和5年7月11日(火)・枕崎市市民会館〕

研修Ⅰは、「学校と地域が連携した子どもの成長を支える仕組みづくり」と題して県教育庁社会教育課**中村 智子**課長の講演でした。

国や県の方向性を踏まえ、これからの地域学校協働活動について事例を交えながら、分かりやすく説明していただきました。社会教育行政を進めていく者として、関係団体等とも連携を図りながら今ある組織をうまくつないで体制づくりを進めていくことが必要であることなど、取り組んでいかなければならないことを改めて、確認することができました。研修会後のアンケートに、「市の研修会等でも説明はしているが、各地域コーディネーターや教頭等にも聞かせたい内容だった。」などとあり、講演で学んだ内容が参加者から各地域・学校への広がり期待できる講演でした。

研修Ⅱは、「各市における学校と地域の連携・協働の在り方」をテーマに、少人数の分科会で講演の内容や各市の資料を基に、現状や課題について情報交換・意見交換を行いました。様々な情報共有の中には、各市の方針や予算のことなど細かいところも話題になり、充実した分科会になりました。



【講師：中村 氏】



【分科会】

南薩地区自治公民館経営研究会

〔令和5年8月30日(水):サン・フレッシュ枕崎〕

公民館運営における今日的課題やその解決策等を、講演や事例発表、研究協議を通し議論し、共有する研究会を、4市の公民館長をはじめ関係者124人が参加して開催しました。

最初は、「現代社会における社会教育の意義と可能性～公民館活動を通して孤立孤独を乗り越える～」と題して、鹿児島大学法文学部法経学科地域社会コース**酒井 佑輔**准教授による講演でした。ユーモアを交えながら、講演の途中参加者と直接意見交換の場面もあり、分かりやすく、楽しい講演は大変好評でした。公民館は「つどう」、「まなぶ」、「むすぶ」役割を通して、「人づくり」、「地域づくり」の新しい拠点として、そして少子高齢化が進み、活動の担い手が不足している今、多様な他者と協働するために創造的な対話を進め、様々な人とのつながりを創造することが大切であると話されました。参加者からは、「聞く力を身につけ、年代を超えて多くの人（地域住民）と交流したい。」など、今後の活動に繋がるような感想が多く寄せられました。

続いて事例発表を、「人がつながる！世界とつながる！共生のまち山川」と題して、異文化交流（技能実習生との交流）を通じた活動を山川校区公民館**有馬 象多郎**館長、**有馬 尚美**公民館主事の二人にいただきました。講演の内容ともつながる取組は、とても参考になりました。技能実習生や移住者など多様な文化、考え方をもち方々がいる地域も増えつつあり、「自分の地域でも取り組んでみたい。」など感想がありました。



【講師：酒井 氏】



【事例発表・研究協議】

人権教育の充実

南薩地区社会教育委員研修会 兼 人権教育ブロック別指導者研修会

〔令和5年10月12日(木)・南さつま市民会館〕

南薩地区社会教育委員研修会を、今年度は「南薩の教育力を生かした学校と地域の連携・協働の在り方」をテーマにして、「人権教育ブロック別指導者研修会」を兼ねて開催しました。

人権教育ブロック別指導者研修会では、鹿児島県人権同和対策課人権研修推進員常深 透氏による「誰もが幸せに生きるために～認め合い、支え合う社会へ～」と題した講演を通して、様々な人権について学びました。具体的な事例やDVD視聴による講演は分かりやすく、身近にある人権問題について考えるよい機会になりました。

その中で、多くの人権問題の根底にある「私たちが無意識のうちに特定の人々に対して偏見や差別的な態度をとってしまうこと（アンコンシャスバイアス）」について、何気なく使ってしまう言葉の中にもその意識や行動につながるものが存在している。」という大切な学びがありました。

また、多様性の理解については、それぞれの違いを認め、尊重することがよりよい人間関係を築く上で欠かせない要素であることを学びました。参加者からも、「人権教育・人権問題について改めて考えるよい機会になった。」、「人権感覚をさらに磨いていきたい。」、「機会を捉えて、今日の話を広げていきたい。」など、前向きな感想がたくさんありました。

【講師：常深 氏】



南薩地区子ども会大会及び育成者・指導者研修会

〔令和5年6月24日(土)：金峰学園〕

今年、新しく義務教育学校としてスタートした、南さつま市の金峰学園を会場に開催しました。

表彰式では、5つの団体と1個人が表彰されました。その後、「大塚子ども会」、「渡瀬・鳥山子ども会」、「網揚子ども会」、「ジュニア・リーダークラブかわなべ(なべ花火)」による事例発表がありました。どの発表も、地域の特色がとてよく現れた魅力ある素晴らしい事例発表でした。中には、「小学生・中学生・お母さん」と親子による発表もありました。

その後、子供たちの「ふれあい活動」と指導者・育成者の「講演会」を並行して実施しました。「ふれあい活動」では、コロナ禍で聞く機会の少なかった子供たちの元気な声が体育館に響いていました。指導者・育成者は、「ゲームにハマる子どもたちの心の理解とかかわり方」と題した志学館大学松本 宏明准教授の講演を通して、子供たちの理解の仕方や関わり方について学びました。



【表彰式】



【事例発表】



【体験活動】

南薩地区子ども会ジュニア・リーダー研修会

〔令和5年11月25日(土)：指宿市なのはな館・鰻地区〕

地区内の中・高校生を対象に、グループ活動や話し合い活動などを通して地域のリーダーとして活動できる人材の育成を目的に開催しています。

今年は、鰻地区での散歩や体験活動、なのはな館でのグループ活動などを通して他市の参加者との交流を深めました。この研修会での学びや気づきが、各地域での活動に生かされることを期待しています。



【なのはな館での活動】



【鰻地区での活動】

南薩地区子ども会安全教育研修会・創作活動大会

〔令和5年12月2日(土):枕崎小学校〕



【伝達表彰】

ジュニア・リーダーの進行で、開会行事、全国子ども会連合会表彰の「知覧校区子ども会育成連絡協議会」、県優良少年少女団体表彰の「枕崎市下山子ども会」、「南さつま市愛宕上子ども会」への伝達表彰、事例発表を行いました。事例発表では、枕崎市の「旭町子ども会」と「塩屋子ども会」が特色ある活動を元気に発表してくれました。

その後、「親子で音楽を楽しもう」と題して茶屋 桃子さんのエレクトーン演奏会を行いました。演奏会では、アニメソングなど親子で楽しみ、少し早いクリスマスプレゼントになりました。



【演奏会】



【事例発表】

安全教育研修と創作活動はグループに分かれて行いました。安全教育研修には参加者全員がグループごとに取り組む、身近にある危険への気付きとその回避方法について学びました。創作活動は4ブース中、2つを選び体験しました。どのブースにも子供たちの笑顔が溢れていました。



【創作活動】

地域文化の継承・発展, 文化財の保存・活用

南薩地区文化財保護審議会委員等研修会

〔令和5年5月24日(水):サン・フレッシュ枕崎〕

今年度は、現地視察研修を取り入れて研修会を実施しました。半日開催で、多少窮屈なところはありましたが、天候にも恵まれ充実した研修会になりました。

研究・事例発表は、「鶴丸城 御楼門の復元について」と題し、御楼門の復元の経緯や復元の行程について、南九州市文化財保護審議会厚村 善人会長にいただきました。復元に使われた木材の現地視察など、その熱意と造詣の深さに感銘し、とても興味深く聞かせていただきました。

協議では、地域に伝わる神話などを文化財とすることについて話題になりました。県文化財課からは、「地域文化として継承していくことに問題はないが、文化財とすることについては慎重に考えていく必要がある。」と指導がありました。

3年ぶりに実施した現地視察研修は、天候にも恵まれ現地で文化財に触れることの大切さを認識しました。枕崎市のシンボルとも言える立神岩を望む火之神公園では、立神岩にまつわる伝説など興味深い説明を、枕崎市文化財保護審議会山崎 盛隆



【研究・事例発表:厚村 氏】



【協議】

会長、牛山 好治委員にいただきました。立神岩、開聞岳を望む景観はとても素晴らしいものでした。堂通神社(字船小屋)跡では、わずかに残る石柱を前に、説明を受けながら当時に想いをはせました。



【石柱・堂通神社(字船小屋)跡】

南薩地区「指定文化財」巡視視察

〔令和5年11月15日(水):南九州市〕

南九州市文化財課新地 浩一郎主任主査から、国・県・市指文化財の保存や活用状況についての説明を受けながら巡視視察を実施しました。

南九州市が進める、「市民に地元の史跡や文化財をよりよく知ってもらおう。」という取組を織り込みながらの説明は、とても興味深いものでした。文化財の存在意義、それをどのように周知し、活かしていくのかという説明は大変参考になりました。そして、文化財を前にした説明で、その内容をより実感することができ



【薩摩の水からくり(豊玉姫神社)】

【川辺の大クス】



【清水磨崖仏】



【飯倉神社】



ました。視察の最後に訪れた、「飯倉神社(市指定)」は、大クス(県指定)などの樹木、神社本殿、宋風獅子といった文化財が、こけの生えた境内の雰囲気と調和していました。

しかし、「清水磨崖仏(県指定)」など、時と共に劣化の進んでいく文化財は、保存方法などその難しさも感じた視察でした。

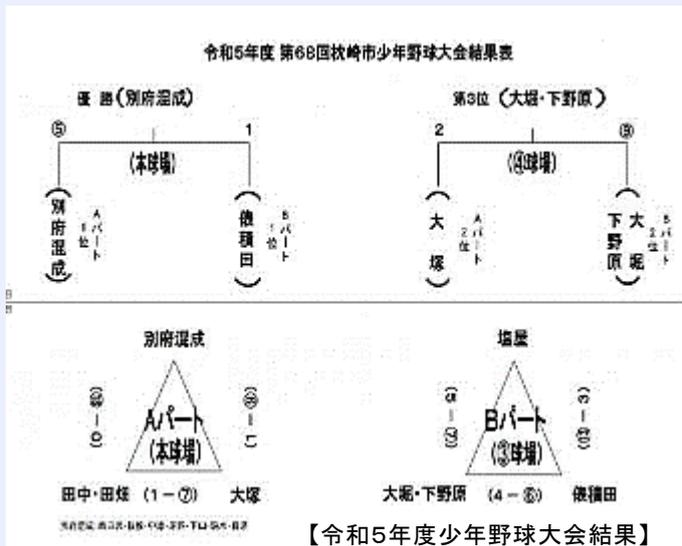


枕崎市少年野球大会

枕崎市少年野球大会は、今回で68回目を迎える枕崎市の夏休みを代表する伝統行事です。市内のチャンピオンチームを決定するこの大会は、子ども会単位でチームを構成して参加する決まりになっており、昭和31年度から開催されています。

本年度は、7月29日（土）と7月30日（日）の2日間にわたり、枕崎市自治公民館連絡協議会主催により開催されました。令和2年度から令和4年度の3年間は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となっていました。今回4年ぶりに開催され、市内から6チームが集まり、熱戦が繰り広げられました。1日目はA・Bパートに分かれて総当たりの予選6試合を、2日目は勝ち上がった4チームによる3位決定戦と優勝決定戦の2試合を行いました。参加した全ての小学生は、これまでの練習の成果を遺憾なく発揮しながら、随所で力強いプレーを披露していました。

優勝：別府混成チーム 準優勝：俵積田チーム 3位：大堀・下野原チーム 4位：大塚チーム



【令和5年度少年野球大会の様子】

令和5年度枕崎市人権問題啓発研修会

8月29日、鹿児島県人権同和对策課人権研修推進員の常深透先生を講師として招聘し、枕崎市人権問題啓発研修会を開催しました。当日は、市内の家庭教育学級生をはじめ、高齢者学級生、市人権擁護委員など、合計で150人の方が人権に関する研修を深めました。

講演の中では、障害者差別、外国人差別、同和問題、性的少数者差別などの今日的人権課題について多くの資料を活用しながら分かりやすく説明をしていただき、参加者全員が自分の普段の生活や生き方について真剣に考えさせられる貴重な機会とすることができました。

出席者の感想（一部）

- 周りの人を尊重し、支え合うこと、また自分自身のことも認めてあげることが大切だと改めて気付かされました。
- 2学期を迎える直前に、生徒や周りの人を尊重することの大切さを改めて感じる事ができました。



【研修会の様子】



指宿市

地域のリーダーの育成を目指して～指宿市・人吉市子ども会交歓会～

【事業概要】

指宿市と熊本県人吉市は昭和54年1月18日、相互の理解と親睦を深め、両市民の幸福と市政の発展を願って姉妹都市盟約を結びました。なかでも、子ども会交歓会は盟約当初から続けられており、海の温泉町・指宿と山の温泉町・人吉をつなぐ重要な事業となっています。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行や人吉市における豪雨災害等の影響により、令和2年度から事業自体を休止しており、今回4年ぶりの対面実施となりました。今年度についてはジュニア・リーダーを人吉市へ派遣し、両市のジュニア・リーダーの交流及び資質向上を図るとともに、災害復興に向けた人吉市の様子を学びました。

【活動の様子①（自然活動体験 ラフティング）】

日本三大急流である球磨川でラフティングをしながら、人吉市の自然を味わうとともに自然体験活動の楽しさを体感しました。ラフティングコースの中には豪雨災害により被害にあった民家や鉄道橋を間近で見ることができ、自然災害の恐ろしさも同時に学びました。



【ラフティングの様子】

【活動の様子②（フィールドワーク 災害学習）】

災害学習として「国宝 青井阿蘇神社」へ行き、被災者体験談や文化財を含む町の復興の講話をとおして災害への理解を深めました。また、人吉市のジュニア・リーダーが復興作業にボランティアとして参加している話も聴き、本市ジュニア・リーダーの活動についても考えさせられる学習となりました。



【被災者体験談講話の様子】

今回の交歓会をとおして、両市の交流・親睦を深めることはもとより、ジュニア・リーダーとしての資質向上やスキルアップにもつながる機会となりました。今後も、ジュニア・リーダーには地域の青少年のリーダーとして活躍する姿を期待しています。

企画展「海が織りなす焼酎文化～芋・技・肴・器～」

指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれでは「指宿まるごと博物館構想」に基づき、毎年様々なテーマで企画展を開催しています。令和5年度は、初めて焼酎文化を網羅的に扱った企画展として「海が織りなす焼酎文化～芋・技・肴・器～」(期間：令和5年12月9日～令和6年3月24日)を開催しました。「だいやめ」という方言が表すとおり、私たちの日常に溶け込んでいる芋焼酎ですが、近年では世界的にも類を見ない「文化遺産」としての面も注目されています。本企画展では、焼酎文化を構成する要素である、海を超え伝来した原料さつま「芋」、同じく海外から伝えられた蒸留技術や、明治後年から大正にかけての芋焼酎製造技術革新といった「技」、なんこなどの酒宴の「肴」、酒席で用いられる「器」に焦点を当て、焼酎500年の歴史を紹介するとともに、指宿市内の蔵元6社に取材・資料提供への協力をいただき、蔵の歴史や焼酎造りへの想い、各銘柄の魅力を紹介することで、焼酎が独自の風土と海に開けた土地柄が生んだ、世界的にも類を見ない地域の「宝」と再認識することを目的としました。



また、本市教育委員会では、市民への生涯学習の場の機会提供と文化財保護啓発活動の一環として、外部講師を招き地元の歴史や文化の魅力を学ぶ「いぶ好き『ふるさと学』講座」を年5回開催しています。今年度は企画展に関連するテーマで座学3回、フィールドワーク2回を実施しました。フィールドワーク



の実施にあたっては、より効果的な学びをねらい、鹿児島国際大学と鹿児島県酒造組合の協力を得て、焼酎を軸として郷土の歴史や文化を学ぶストーリーを構成しました。酒蔵の見学、焼酎の多様性を感じられる試飲に加え、さつまいもや蒸留技術伝来の玄関口となった「貿易港」とその重要性を今に伝える文化財・神社巡りを組み合わせました。今後も博物館では、市の文化振興拠点として、地域の「宝」を掘り起こし、幅広い世代へその魅力を発信する事業を進めていきたいと考えています。



南さつま人 心輝け 市民フェア

本市では、「心輝く南さつま人ーみんなで夢を紡ぐまちー」をスローガンに生涯学習の推進に取り組んでいます。そこで、市民に生涯学習への更なる興味と関心を喚起し、理解と普及を図るため令和6年1月20日(土)に「南さつま人 心輝け 市民フェア」を開催しました。

表彰では、南薩地区の教育振興会表彰や子ども会育成連絡協議会表彰の伝達のほか、南さつま市の生涯学習活動に大きく貢献した個人、団体への表彰、人権尊重標語コンクールなどの優秀作品への表彰も行いました。学びの花オンステージでは、市民大学講座「マジック」講師によるマジックショーで会場を和ませました。人権教育講演会では、鹿児島県教育庁社会教育課の本山智彦先生をお招きし、「インターネットと人権」と題して講演していただき、インターネット上での人権問題について理解を深めることができ有意義な時間となりました。市PTA連絡協議会活動発表では、加世田中学校PTAによるコロナ禍以降の現在の取組について発表がありました。学びの風オンステージでは、南さつま市少年少女合唱団による合唱が行われ、さわやかな歌声をホール内に響かせていました。



【人権教育講演会】



【PTA 活動発表】



【南さつま市少年少女合唱団】

南さつま市子ども会育成連絡協議会イン・リーダー研修会

南さつま市子ども会育成連絡協議会イン・リーダー研修会を令和5年2月25日(土)から26日(日)の1泊2日で、県立南薩少年自然の家で開催しました。小学生17人、中学生1人、合計18人が参加しました。

入所式の後、参加者は宿泊を共にする仲間と4つの班に分かれて、班ごとに活動しました。

1日目の午前には、安全啓発研修(危険予知トレーニング)とアイスブレイキングを行いました。当初は、なかなか話が出来なかった参加者同士でしたが、レクリエーションなどをおして、徐々に打ち解けていきました。午後からは県立南薩少年自然の家の職員の方の指導のもと、フォトアドベンチャーに挑戦しました。午前中の活動で緊張がほぐれた子どもたち。グループで協力し合いながら、全員無事ミッションをクリアすることができました。夜は加世田サイエンスクラブに協力をいただき、天体観測を行いました。雲が多く、見え隠れしていましたが、冬の夜空を堪能することが出来ました。

2日目の午前は、次年度の活動を見越した年間行事計画作成演習を行いました。コロナ禍で十分に活動が出来なかった子どもたち。「来年度こそは」と思いを込め、想像豊かな計画を作成することができました。

この研修をとおして、子ども会のリーダー育成及び館員の親睦を深めることができました。



【レクリエーションの様子】



【天体観測の様子】



【研修会に参加された方々の記念撮影】



～学ぼう！屋久島の自然と環境 育てよう！たくましい心と友情～ アドベンチャーin 屋久島

コロナで途絶えていた「アドベンチャーin 屋久島」を4年ぶりに開催したところ、3泊4日という長期間の日程にも関わらず、定員の30人を大幅に超える51人から応募がありました。応募してくれた子どもたち全員に参加してもらいたかったところですが、抽選等により30人(小学生18人、中学生12人)を決定しました。

フェリー屋久島2に乗船し、屋久島へ出発。初日は、野外炊飯活動を行い、薪でご飯を炊き、野菜を切ってカレーを作り、皆でおいしく食べることができました。2日目は、メイン行事の白谷雲水峡観察(登山)を行いました。太鼓岩を目指し雨の中転んだり、みんなで声をかけ助け合ったりしながら往復5時間の登山を達成しました。3日目は、猿川のガジュマルや大川の滝を見学したり、タイドプール観察を行い海の生物を学んだりして、「世界遺産・屋久島」を満喫し、自然の大切さも学ぶことができました。4日目は、屋久杉でオリジナルキーホルダーやペンダントを創作し、屋久杉の性質やその歴史を学びました。

参加した子どもたちからは、「たくさんの友達ができてうれしかった」、「一步踏み出すことができてとてもよかった」などの感想があり、参加した子どもたちの保護者からは、「同じ学校ではない子たちと触れ合っている様子を見て、親として参加させることができて良かった」、「異年齢での活動、自分の責任を果たすことなど、様々な活動を通じていい経験ができたと思う」などの感想が寄せられました。



【野外炊飯活動】



【白谷雲水峡観察】



【大川の滝】



【タイドプール観察】



市地域女性団体連絡協議会「南九州市ふるさとを興す学習大会」



【大迫茂子会長による開会宣言】

令和5年9月20日(水)、県・市地域女性団体連絡協議会主催の「南九州市ふるさとを興す学習大会」が川辺文化会館ホールで開催されました。4年ぶりにコロナ前の従来の規模での開催となり、市地域女性団体連絡協議会ほか、市内の女性団体や小・中学校PTAなどから、計94人の参加がありました。

講演は、以下のとおり3人の講師の先生方に御講演いただきました。

(1) 保健・福祉分野①

講師：公益財団法人鹿児島県民総合保健センター 所長 桶谷 薫 氏
演題：「今こそ、がん検診。安心して暮らせるために」

(2) 保健・福祉分野②

講師：地域活動支援センタークリンカハウス 施設長 兒島 淳子 氏
演題：「持続可能な健康づくりで幸せづくり」

(3) 教育分野(人権)

講師：南九州市教育委員会社会教育課 社会教育指導員 松窪 まゆみ 氏
演題：「言葉を大切にすることは命を大切にすること」

参加者からは、「3つの講演を通して、自分の生活を見つめ直した」などの意見があり、改めてこれまでの自分自身を振り返る機会となったようです。

各市の文化財紹介

枕崎市

いおうざんいわさきでらあと

硫黄山岩崎寺跡

平成16年9月2日(市指定)

創建の年代は明らかではありませんが、一乗院(坊津)の直末寺かつ真言宗の古い寺で、山号を硫黄山といい、寺領四石の寺であったと言われていています。また、文禄3年(1594年)に坊津に流されていた左大臣近衛信輔(後に、関白へ就任する近衛信尹)卿も、この岩崎寺に度々足を運ばれたと伝わっています。坊津配流の際、着いた鹿籠の和田の崎(現在の火之神公園付近)で卿が詠んだ有名な歌があります。

薩摩かた 和田の崎なる ひとつまつ 霧のうちより 舟よばうらし
(開聞岳を眺め)

さつまかた 穎娃の郡の うつほ島 これや筑紫の 富士といふらむ

※ 筑紫は、古くは九州全体を表す呼称でした。(筑紫島=九州)

※ 明治2年(1869年)の廃仏令により廃寺となりました。



【硫黄山岩崎寺跡】



【開聞岳】

指宿市

みずさこ ほうちゅういたび に き

水迫の方柱板碑(二基) 令和5年3月30日(市指定)

「水迫の方柱板碑(二基)」は、水迫墓地に所在する2基の板碑(板状に加工した石で作られた供養塔)で、江戸時代初期の元和9年(1623)に、水迫村の人々が彼岸にあたって建立したものです。碑文には、水迫村の久屋道昌という僧侶(もしくは出家した位の高い人物)が、次世代の安楽を念じて、經典を百万遍唱える功德を積んだことや、鏡妙如大姉という功德を積んだ女性が極楽浄土に往けるようにとの供養が記されています。江戸時代初期の地域社会における信仰をうかがうことのできる資料です。

さらに重要なのが、この板碑に「薩那湯豊宿之郡水迫村」とあり、指宿の地名が「湯豊宿」という漢字表記で記されていることです。これまでに「湯豊宿」と記された板碑は市内で3つ見つかっており、いずれも市の指定文化財に指定されています。これら3つの板碑は戦国時代にあたる天文12年(1543)から天文16年(1547)までの間に建立されています。また、その内容は、宮ヶ浜に所在する松尾城の城主である津曲兼任に関するものや、かつて宮ヶ浜にあった「長勝院」という島津家にもゆかりのある寺のものなど、いわば統治者層により建立されたものです。このため、「湯豊宿」の地名表記は、津曲兼任が使用していた、限定的な表記と考えられてきました。

ところが、「水迫の方柱板碑(二基)」が発見されたことで、「湯豊宿」という地名表記が、「指宿」や「掛宿」という表記と並行して江戸時代初期まで使用されていたこと、そして、統治者層だけでなく、民衆にも知られていたことが明らかになりました。「水迫の方柱板碑(二基)」は、他の3件の「湯豊宿」記銘板碑とあわせて、指宿の地名の変遷を知るうえでとても貴重な歴史資料なのです。



【水迫の方柱板碑(二基)】

南さつま市

かこいのはらいせき

梶ノ原遺跡

平成9年3月11日(国指定)

国指定史跡「梶ノ原遺跡」は、南さつま市加世田村原に所在する遺跡です。平成4・5年度に行われた発掘調査によって縄文時代草創期(約14,000年前)の集落跡であることがわかり、数多くの土器片や石鏃・磨製石斧・磨石類といった多様な石器などのほか、煙道付き炉穴・舟形配石炉・集石などといった生活遺構が発見され、縄文文化の黎明期がうかがえる貴重な遺跡として全国的に注目されました。

発見された遺構のうち、煙道付き炉穴は、動物の肉などを煙でいぶして燻製を作る施設であったとみられています。

縄文時代草創期の遺跡の発見が相次ぐ南九州は氷河期終焉後の温暖化による縄文時代的な自然環境が日本列島の中でいち早く整い、旧石器時代の遊動生活から、縄文時代的な定住生活への移行が始まった地域と考えられています。

梶ノ原遺跡は、縄文文化の日本列島南部からの開始の状況を雄弁に物語り、我が国の歴史を正しく理解するうえで欠かせない遺跡であるとして、平成9年に国の史跡に指定されました。



【梶ノ原遺跡】



【丸ノミ形磨製石斧(梶ノ原型石斧)】



【隆帯土器片】



【煙道付き炉穴】

南九州市

さつまみず

とよたまひめじんじゃ すいしゃ

薩摩の水からくり(豊玉姫神社の水車カラクリ)

昭和59年12月20日(国選択)・昭和58年4月13日(県指定)

南九州市知覧町にある豊玉姫神社では、六月灯の時期に神社の前を流れる水路に備え付けた水車の動力を利用した「からくり人形」が上演されます。この水車の動力を利用したからくり人形は、全国でも鹿児島県でしか見られません。

水車のからくりについては明確な記録はありませんが、水車のある水路は安永9年(1780)に山下井堰^{やましたいげき}の築造によって通水したため、からくりが始まったのもこの時期以降であると考えられています。

日露戦争中に一時中断し、その後復活と中断を繰り返し、太平洋戦争の激化により完全に途絶えていました。そのため、昭和54年(1979)に保存会を結成し、町民の援助を受け、神社に保管されていた古い部品や人形の断片から「からくり」を復元しました。昭和58年にからくりを含めた人形などが県の有形民俗文化財に指定、昭和59年には南さつま市「加世田の水車カラクリ」とともに、国の無形民俗文化財に選択されています。

令和2年・3年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止を余儀なくされましたが、令和4年に3年ぶりに復活し、再び知覧の夏の風物詩として親しまれています。今年の演目は「かぐや姫」。平成22年に上演された時より表現を工夫した竹取物語の世界に多くの観客が魅了されました。



【表現を工夫する製作の様子】



【令和5年演目「かぐや姫」】